



柏崎市教育委員会 博物館 埋蔵文化財係 学芸員

平吹 靖

HIRABUKI YASUSHI

1972年 山形県出身

1997年 柏崎市役所に入庁

柏崎市域でこれまで見つかった遺跡は全て登録され、その数は1,000を超える。「その多くは見つかってはいるけれど調査はされていない遺跡」だと学芸員の平吹さんは教えてくれる。

土器などの埋蔵文化財があっても公共工事等が入らなければ遺跡は土の下にそのままにしておく。発掘調査をするということは、実はその遺跡が無くなることも意味する。だが、発掘調査をしたおかげで遺跡の詳細は明らかになる。新たな発見によって分かったこの地域の歴史や人々の営みは目を見張るものが多く、現代の私たちにもたらされる恩恵も大きい。

埋蔵文化財の調査・研究・保護に長年携わってきた学芸員の平吹靖さん。考古学に興味を持ったのは父の影響があったと振り返る。父は教師で歴史(考古学)が専門、山形県内の遺跡調査も長く担当してきた。実家には土器などが身近にあり、子どもの頃は父と古墳を見に行くことも多かった。大学では歴史や遺跡、仏像も好きだったが、悩んだ末に考古学を専攻した。東京国立博物館・平成館建設の際の遺跡調査の他、北陸地方等に多くみられる縄文時代の大型住居跡の研究を行った。

卒業後は縁あって柏崎市役所に入庁。遺跡担当の学芸員として、市内新赤坂町の天満遺跡や現在は市民プラザが建つ、柏崎町遺跡の他、さまざまな発掘調査を行っている。琵琶島城跡では希少な刀や茶道具などが見つかって驚いたという。

琵琶島城は柏崎では数少ない平(ひら)城で本丸は現在の総合高校辺り。調査により年代は室町・戦国時代であり、茶道具からはこの地域にも茶の湯が伝わっていたことが分かる。刀は模造刀だったことから実用ではなく儀礼に使われていたのではないかと話す。

平安時代の製鉄遺跡が22カ所で見つかった軽井川南遺跡群も担当した。柏崎フロンティアパーク造成に伴う発掘調査は30haという広大な範囲に及び、柏崎市で最大規模の調査となった。当時、遺跡担当の学芸員全員が調査にあたり、4年間に及ぶ発掘調査の膨大な記録を令和3年によくまとめることができた。今年春に博物館で企画展を開催、9月には全国の製鉄遺跡研究会で成果を発表。大きな発見の余波は広がっている。

当時の人々の生活が頭の中に見えるくらいまでしっかり調査することを常に心掛けていますと平吹さん。遺跡は一つひとつ違いがあり「試掘調査から想像しても、いざ発掘調査をしてみると大きく遺跡の内容が違うことも多い。良い意味で裏切られることもあり、ギャップが面白い。どんなところに祖先の歴史が埋まっていたのか、現場説明会があれば、ぜひ参加してもらいたいですね」と笑顔を向けた。

令和5(2023)年度 秋季企画展 柏崎市立博物館

鍋屋町式土器

～縄文前期の土器たちが語るもの～

2023.10.14(土)-11.19(日)
9:00-17:00 (月曜休館)

柏崎市立博物館
TEL 0257-22-0567



お問い
合わせ

埋蔵文化財事務所
柏崎市西山町坂田366
☎0257-47-2003